

介護老人保健施設しおさい

症例概要 ご利用者：90代・女性・要介護4

病名：腰椎圧迫骨折・変形性膝関節症

利用サービス：令和4年12月から長期入所をご利用

経過：令和4年12月までK圏域の老健にご入所されていた。前施設ご入所中より全身の痛みが強く、2箇所病院受診してきたが、第1腰椎圧迫骨折以外の所見はなく対症療法となっていた。ご家族は西伊豆健育会病院と連携がとれ緩和療法まで可能な当施設をご希望され、老健から老健への転所となった。ご本人にとっては疼痛持続されているが、その日々の中でも寄り添ったケアの中で痛みを忘れる時間や笑顔をもたらせた症例。

内容

ご入所当初のご本人は、全身の痛みが強く、ほとんど就床されてお過ごしでした。また、表情も暗く険しいことが多々ありました。疼痛コントロールをして安楽にお過ごしいただきたいところでしたが、当施設に転所される前も鎮痛剤を投与すると痙攣発作や消化管出血を起こしたりした経緯もあり難しい状況でした。食事中も疼痛のため、しかめ顔で少量ずつしか召し上がれずいました。日々を過ごして行く中で、何か楽しみな時間や、痛みを忘れる時間が作れないか、まずはご本人とお話しをし、今までどんな生活をされてきたか、何が好きだったか傾聴し、その後多職種で話し合いました。疼痛に関しては西伊豆健育会病院と連携し、その時の状態に合わせて疼痛コントロールを行ってきました。ご本人とお話しを伺う中で、一日の生活の初めにはスキンケアをし、お化粧をされるのが日課であったとの事で、ご家族にご用意いただいた基礎化粧品や化粧品を使用して、まずはお化粧をしたところ、今まで見たことのないような笑顔で「こんなことも忘れてたな」とおっしゃって、お化粧したご自身の姿を大変喜ばれました。そして、畑仕事がお好きだったとのことで、しおさいの談話室にプランターでトマトを植えて、アドバイスを頂いたり、水くれをするなどと栽培に関わっていただきました。そして初めて実がなり赤くなったトマトと一緒に収穫して、一番に召し上がっていただきました。いつも何を召し上がっても険しい表情でしたが、この時は心から喜んでいるのが伝わるほどの「美味しい」というお言葉と、素敵な笑顔を見せて下さいました。私たちはこの数年間「愛情をもって親身な対応」を目標に掲げ、その方の思いに寄り添えるケアが出来るよう、日々取り組んできました。なかなか思う様にいかないことも多く感じますが、地道に育ててきたトマトをこんなにも喜んで召し上がって下さり、これをきっかけに少しずつご自分で召し上がって下さったり、レクレーションや行事にもご参加下さるようになりました。先日の納涼祭では、お化粧をし浴衣を着て参加されました。他のご利用者にも「素敵です」と声をかけられ、嬉し涙を流されていました。腰椎圧迫骨折をきっかけに1年近く、疼痛との闘いで、楽しみや喜びを忘れていらしゃいましたが、日々の中で輝ける時

間を持って、笑顔を取り戻していただけた症例となりました。